

中 央 区 内 景 気 動 向 調 査

令和 6 年 8 月調査結果

令和 6 年 9 月 30 日

中 央 区

— 総 括 —

令和6年8月の動き

中央区内における8月の現状判断D Iは合計で54.4と、前回調査から0.1ポイント上昇している。景気の先行き判断D Iは合計で58.9と、前回調査から8.9ポイント上昇している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I)	令和6年			前回調査 からの変化
	4月	6月	8月	
合計				
現状判断D I	59.0	54.3	54.4	(0.1)
先行き判断D I	53.7	50.0	58.9	(8.9)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、令和 6 年 8 月調査の調査票発送は 8 月 7 日（水）回答期限は 8 月 19 日（月）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 45 名、有効回答率は 90.0%であった。

7 D I の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、D I を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる （良い）	やや良くなる （やや良い）	変わらない （どちらとも いえない）	やや悪くなる （やや悪い）	悪くなる （悪い）
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断D Iは合計で54.4と、前回調査から0.1ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連D Iは46.3と、前回調査から9.4ポイント低下し、企業動向関連D Iは61.0と、前回調査から8.0ポイント上昇している。構成比では、「やや良くなっている」と回答した人の割合が11.8ポイント減少し、「良くなっている」と回答した人の割合が6.8ポイント増加した。

図表1 - 1 各分野における景気の現状判断D Iの推移表

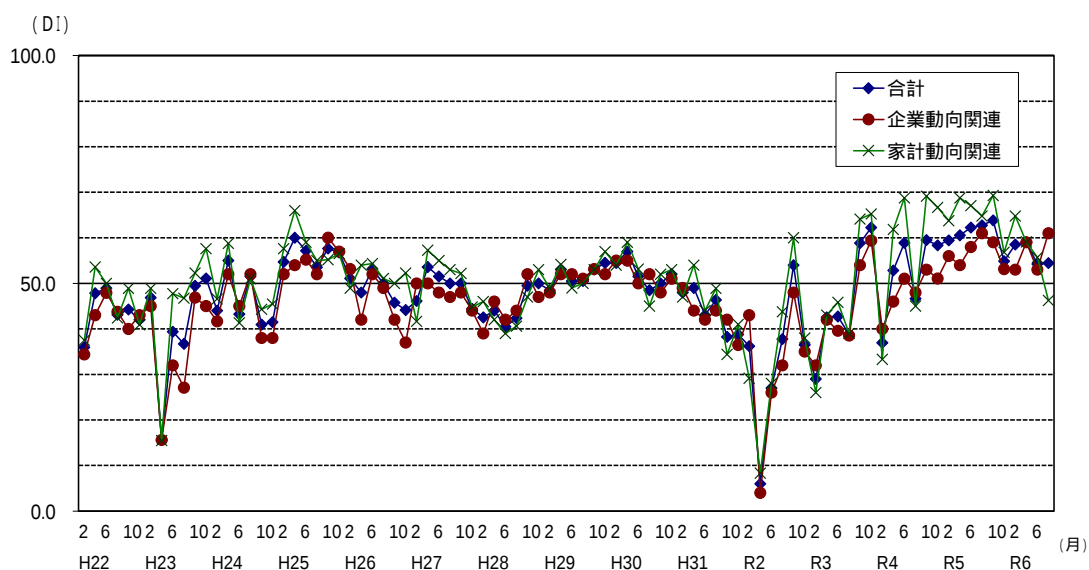
(D I)		令和6年			
		4月	6月	8月	(変化幅)
合計		59.0	54.3	54.4	(0.1)
家計動向関連		59.1	55.7	46.3	(-9.4)
小売関連		58.3	58.3	55.0	(-3.3)
飲食関連		-	-	-	(-)
サービス関連		58.3	41.7	50.0	(8.3)
住宅関連		-	-	-	(-)
企業動向関連		59.0	53.0	61.0	(8.0)
製造業		55.0	55.0	50.0	(-5.0)
非製造業		60.0	52.5	63.8	(11.3)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1 - 2 構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
令和6年	4	8.5%	34.0%	44.7%	10.6%	2.1%
	6	4.3%	36.2%	36.2%	19.1%	4.3%
	8	11.1%	24.4%	42.2%	15.6%	6.7%
(変化幅)		(6.8)	(-11.8)	(6.0)	(-3.5)	(2.4)

図表1 - 3 各分野における景気の現状判断D Iの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断ＤＩは合計で58.9と、前回調査から8.9ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連ＤＩは58.8と、前回調査から12.2ポイント上昇し、企業動向関連ＤＩは59.0と、前回調査から6.0ポイント上昇している。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が14.4ポイント減少し、「やや良くなる」と回答した人の割合が12.0ポイント増加した。

図表 2 - 1 各分野における景気の先行き判断 D I の推移表

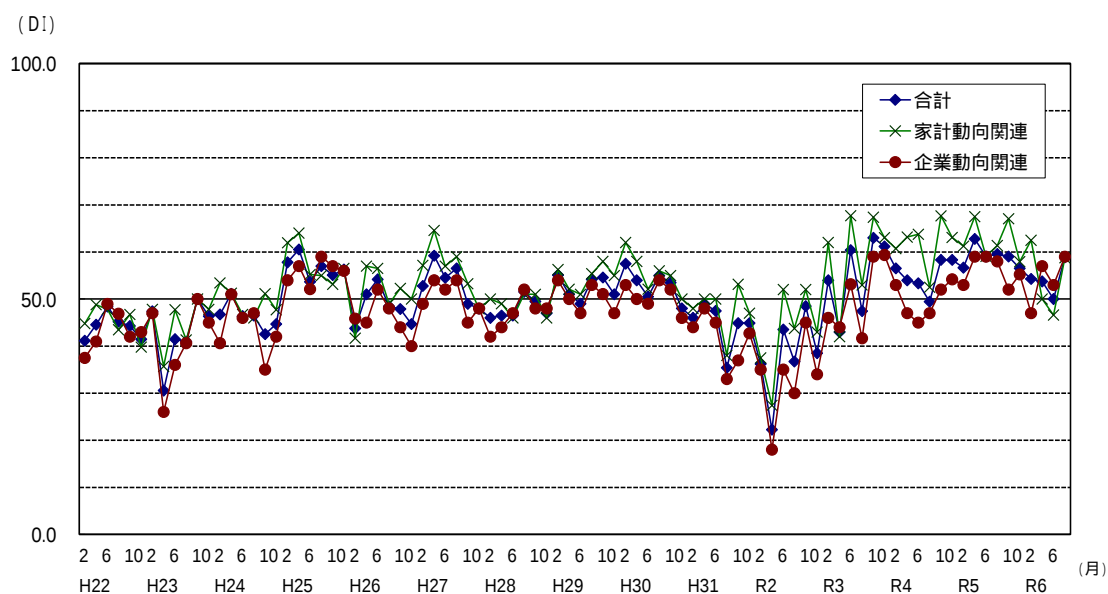
(D I)	令和 6 年			
	4 月	6 月	8 月	(変化幅)
合計	53.7	50.0	58.9	(8.9)
家計動向関連	50.0	46.6	58.8	(12.2)
小売関連	52.1	50.0	55.0	(5.0)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	50.0	41.7	50.0	(8.3)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	57.0	53.0	59.0	(6.0)
製造業	45.0	40.0	45.0	(5.0)
非製造業	60.0	56.3	62.5	(6.2)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 2 - 2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
令和6年	4	4.3%	23.4%	57.4%	12.8%	2.1%
	6	2.1%	21.3%	51.1%	25.5%	0.0%
	8	6.7%	33.3%	48.9%	11.1%	0.0%
(変化幅)		(4.6)	(12.0)	(-2.2)	(-14.4)	(0.0)

図表 2 - 3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

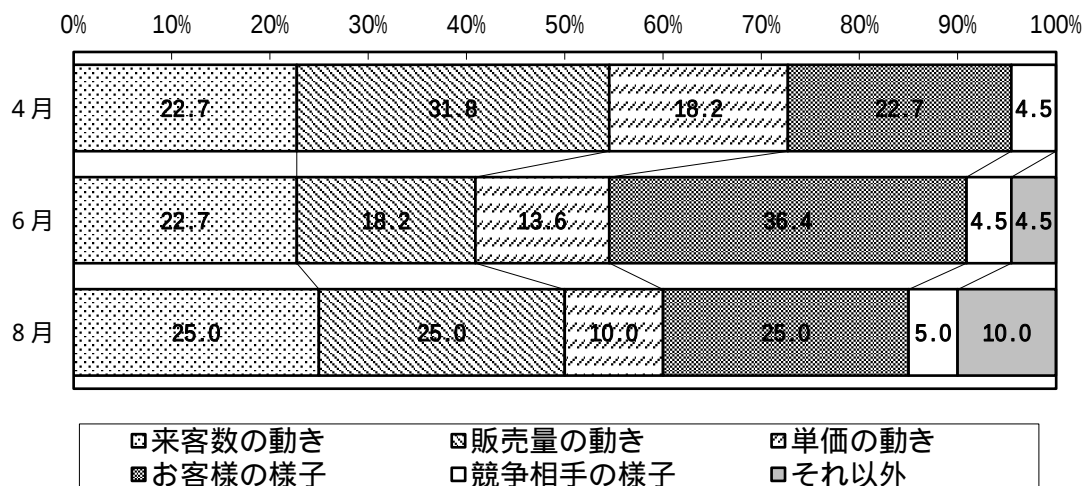
(D I)	令和6年		
	4月	6月	8月
合計	59.0	56.4	52.8
家計動向関連	64.8	64.8	52.5
小売関連	66.7	64.6	62.5
飲食関連	-	-	-
サービス関連	62.5	62.5	58.3
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	54.0	49.0	53.0
製造業	45.0	50.0	50.0
非製造業	56.3	48.8	53.8

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

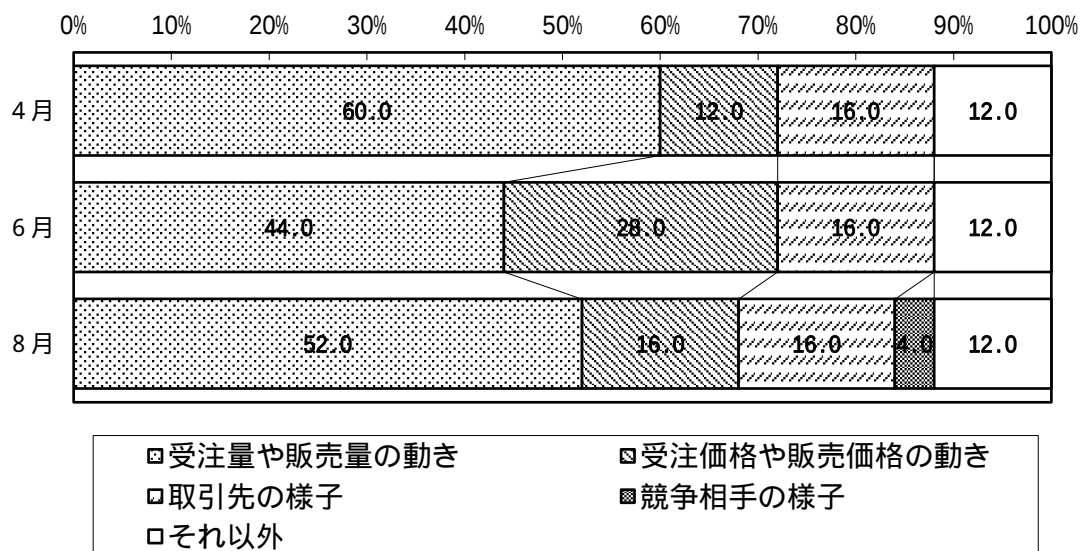
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方方向性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・売上は前年比10%以上の伸長となり、好調に推移している。円安を背景に、海外からの観光客による高額ブランド品や化粧品等の買上が伸びているほか、高級時計や宝飾品、美術品も好調である。一方、夏のギフト需要は大きく落ち込んでいる。
		都市型ホテル（経営者）	単価の動き	・国内客の宿泊需要を大きく上回って訪日外国人客が増加している。
		都市型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・インバウンド客の宿泊が増えている。
	変わらない	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・来客数や単価は余り変化がない。客の様子として、移転する企業が思った以上に多いと感じる。それに伴うプラスがマイナスをカバーしている。
		一般小売店〔文具〕（販売担当）	来客数の動き	・景気は高止まりのままで変わらない。
		百貨店（総務担当）	それ以外	・ここしばらくは、株価、為替の急激な変動による消費マインドへの影響を注視する必要がある。
		乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・新規の来店客は微増しているものの、成約数に大きな変化はない。
		高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・客の予約方法が、複数候補を仮押さえして上司と相談して決めた上でキャンセルするなど、店側が困ることが多々ある。暑さが厳しくなり、来客数も減少気味である。
		旅行代理店（店長）	単価の動き	・物価高、円安傾向が継続しており、客の動向も大きく回復する見込みはない。
		通信会社（営業担当）	お客様の様子	・ユーザの反応は可もなく不可もないように感じられる。
	やや悪くなっている	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	販売量の動き	・例年同月より売上が減少している。
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・夏休みに入っても引き続きインバウンドは好調である。来客数は3か月前との比較では92%と少し減っているものの、前年比では115%となっている。
		高級レストラン（副店長）	来客数の動き	・例年8月は宴会が少ないが、気温の高さと天候の不安定さも影響している。
		理容室（経営者）	お客様の様子	・理容業界はインバウンドの来店も比較的あり悪くないが、消耗品、電気・ガス料金が高くなっている。一方、美容業界、特に当地域はインバウンドの恩恵を受けておらず、景気が悪い。
	悪くなっている	一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・暑過ぎて客が全然来てくれない。特に観光客が来ない。街中を人が歩いていない。
		一般レストラン（経営者）	販売量の動き	・今年の夏は想像以上の暑さで、来客数、販売量全て激減である。暑さ対策といってもなかなか思い浮かばない。
企業 動向 関連	良くなっている	不動産業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・都心オフィスビルの需要は引き続き旺盛で、空室率は低下傾向、賃料単価は上昇傾向である。また、都心部のマンション販売も順調であり、販売単価も引き続き上昇している。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・3か月前と比較すると、予算に対する売上率が40%近く上昇している。
	やや良くなっている	印刷業・製本業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・受注量増加の背景には、事業から撤退又は廃業した同業他社の受け皿ということもあり、仕事の絶対量が増加しているわけではないことを付け加えたい。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年同時期よりかなり良くなっている。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	・以前よりかなり高額な販売価格での引き合いが増加してきている。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	受注量や販売量の動き	・春先と比べると商材の動きが多い。

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	出版業（経営者）	それ以外	・消費者の節約志向が高まっている。ディスカウントストアに出向き、持てるだけの袋で買物をする姿が目立つ。
		出版業（営業担当）	それ以外	・日々の買物やランチ代などの値上げが続いており、実質賃金はマイナスである。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・以前に比べて低いレベルではあるものの、それなりに安定している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・物価の上昇により物販が弱っている。暑さ対策商材の売上は増加しているものの、暑さのためか日中は人通りが少ない。
	やや悪くなっている	新聞業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注額が前年を上回る業種も出てきているが、全体としては厳しい状況が続いている。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経理担当）	それ以外	・株価下落の影響がみられる。
	悪くなっている	○	○	○

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	高級レストラン（副店長）	・秋以降は宴会が増えてくる。既に問合せも多数入っている。
		一般レストラン（経営者）	・飲食店にとっては、人が動きやすい季節になれば相当良くなると期待している。インバウンドも戻ってくるのではないが。
	やや良くなる	百貨店（広報担当）	・株安や円高などのリスクと件はあるものの、個人消費に対するマインドは回復基調にある。
		一般レストラン（経営者）	・7～8月がひどすぎるので、これ以上悪くはならない。少しでも良くなってほしい。
		都市型ホテル（経営者）	・このままでは訪日外国人客の増加が見込まれる。
		都市型ホテル（営業担当）	・夏休み中は都内ホテルの宿泊客数は若干減少しているが、夏休みシーズンが終わるとビジネス利用客が増える。
	変わらない	一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・変わらないというより、与党総裁選挙、株価、円相場、国際情勢など不確定要素が多く、先が見えない。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・現状は下げ止まっている。インバウンドや円高、賃上げなどプラス要素はあるものの、物価の上昇が打ち消している。
		一般小売店〔文具〕（販売担当）	・高止まりのままで変わらない。インバウンドはやや増加しており、欧米人客がやや減少した一方、中国人客が増加している。客単価に変化はない。
		一般小売店〔食品〕（店長）	・自社製品の売上は好調だが、他の飲料や食料品は低迷している。やはり値上がりの影響しているとみられる。特に、飲料自販機の売行きが激減しており、電気代の高騰もあって採算が取れない。
		百貨店（総務担当）	・株価や為替の急激な変動による消費マインドへの影響について、ここしばらくは注視する必要がある。
		百貨店（総務担当）	・コロナ禍の反動及び円安がやや落ち着きを見せてきたことから、好調な流れは持続しつつも、一段落するとみている。天候不順による食品の高騰など不安要素もあり、一部の層を除き、消費意欲は決して高いとはいえない。
		衣料品専門店（店長）	・原価高騰による商品単価アップのため、客単価は上がっているものの、買上点数は減っているため、現状維持が精一杯である。
		乗用車販売店（店長）	・当社では新型車等の予定もなく、9～11月は現状を維持しつつ、年末年始を迎えたい。
		高級レストラン（経営者）	・社会情勢を考えると、良くなるとは思えない。
		旅行代理店（店長）	・物価高、円安傾向が続いているため、海外旅行の申込客は増加する見込みがない。今後円高になったとしても、急激な旅行者の増加はないとみている。
		通信会社（営業担当）	・良くなる要素が余り見当たらない。
	やや悪くなる	競馬場（職員）	・物価の上昇に加え、日経平均株価の下落が影響している。
		理容室（経営者）	・電気・ガス料金等の高騰が続いている。また、スタッフの求人状況も低迷している。
	悪くなる	-	-
企業 動向 関連	良くなる	不動産業（企画担当）	・訪日外国人は着実に増加しており、ホテルの稼働率や宿泊単価も上昇傾向である。また、滞在期間中の消費意欲も旺盛であり、この傾向は当分続くと思われる。
	やや良くなる	印刷業・製本業（営業担当）	・国内の状況だけでなく、米国の大統領選挙後の国際情勢によりどちらに転ぶのか、判断に迷うところである。
		建設業（営業担当）	・仕事量、物件数共に増加している。
		建設業（経営者）	・取引先の発注量が増加傾向にある。
		建設業（経営者）	・来年の夏くらいまでの仕事を受注できている。
		通信業（営業担当）	・取引先の様子を見ていると、コロナ禍後の業務の回し方が定着し、コミュニケーションの取り方が大きく変わっている。その変化に伴う課題解決に取り組む企業が増え、案件が増えてきている。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・涼しくなってくれば人が外に出てきて活動的になるので、消費も上向く。
		卸売業〔機械器具〕（営業担当）	・最近受注したものが2～3か月先に納品となる。数件ではあるものの受注ボリュームがやや大きいので、今月と比べれば良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		経営コンサルタント	・暑さがやわらぎ、米も新米になり、物価の上昇も落ち着きを見せる。外国人客も更に増加して消費が伸びる。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・季節の変わり目で、この時期に更新等を検討する客も多いため、上乘せした受注を獲得できると想定している。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（管理担当）	・受注量が多い。
	変わらない	出版業（経営者）	・株安、円安という悪循環に陥らなければ、景気悪化は避けられるのではないかと。
		出版業（営業担当）	・円相場、株価が乱高下しており、政治、経済、国際情勢いずれも不透明で、今後の見通しが立たない。
		建設業（営業担当）	・受注が伸びない。
		輸送業（従業員）	・景気に左右されにくいので、良くも悪くも変化が少ないことが大きな理由である。
		通信業（営業担当）	・直近の受注状況に目立った変化はなく、2～3か月程度先の変化を感じるような状況ではない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・日銀の利上げ方針による日米金利差縮小の見通し、並びに米国の景気減速見通し等から、株式と為替に大きな変動が生じたが、実質的に国内景気が過熱しているわけではなく、また、米国が顕著なりセッションに入ったわけでもないことから、今までの海外からの日本株への「買い持ち」、円の「売り持ち」の過剰分が幾らかはがれたということではないか。実際、これだけの低金利にあっても、為替要素以外で国内企業が利益を積みしていない状況から、今後どれだけ実力を絞り出せるのかというのが、およそ不透明である。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・海外需要や新規取引がある一方、従来取引が低迷しているため、良くも悪くもなりにくいのではないかと。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・変化の兆しは特に感じられない。
		卸売業〔機械器具〕（支社長）	・物価が高止まりしており、コストが見合わず受注できない仕事が見えなくなる。
		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・最近の受注動向が読みにくい。取引先企業のお金の使い方が、各社ごとの考え方で大きく異なっており、アプローチが多様化している。
	やや悪くなる	新聞業（営業担当）	・秋に米国大統領選挙や与党総裁選挙を控えており、昨今の株式市場の不安定な動きも相まって、景気の先行き不透明感をもたらしており、企業活動はある程度抑制するのではないかとみている。一部の業種を除いて、当面は全般的に厳しい状況が続く。
		印刷業・製本業（経営者）	・中国経済の不安定さにより、中国向け輸出が悪くなる。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（経理担当）	・株価や円高の影響が予想される。
	悪くなる	-	-

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連	小売関連	25
	商店街・一般小売店	15
	商店街代表者	5
	一般小売店経営者・店員	0
	百貨店	5
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	4
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	2
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	1
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	1
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	1
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	6
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	1
	通信会社社員	1
	レジャー施設関連	1
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	0
	その他サービス	1
	美容室経営者・従業員	1
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連	企業動向関連	25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0